

発行所：社団法人 全国鉄道広告振興協会

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階

TEL：03-5791-1808 FAX：03-3443-1616 メールアドレス：information@jarap.jp

URL：<http://www.jarap.jp/>

巻頭レポート

《駅》から《街》へ。 メディアの連携を実現。

——人の流れを誘導する、公共ボード登場。——

●「駅メディアの多様化」

とともに、

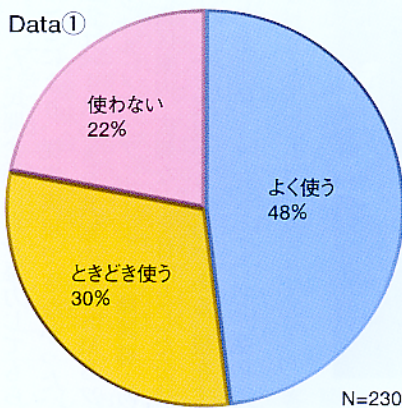
「街メディアも変化」。

近年のJR／私鉄／地下鉄などの広告メディアの変貌は、目覚ましいものがあり、駅構内・駅ビル・駅前広場などを中心に、従来には見られなかった新しい広告手法や新しいメディア形式が続々と登場してきている。IT技術や液晶技術・通信技術などが、安全性・コンプライアンスを確保したうえで、さらに生活者の利便性実現に寄与しており、まさに、駅が交通機関としての機能だけでなく、マルチなメディア機能を持つてきていると言っている。だろう。

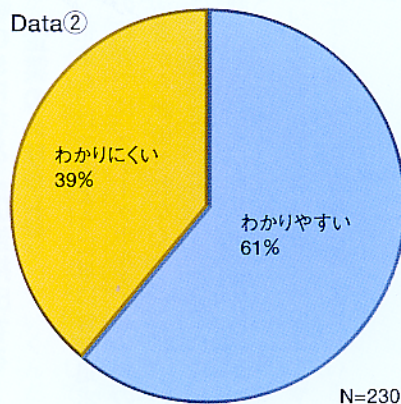
特に、駅は通勤者・通学者・来訪者の《行動の起点》として重要な役割を果たしていることはご承知のとおり。この行動のスタート地点である《駅》と街中のメディアが、いかに連携をはかり、生活者の流れをスムーズに誘導するかが、数年来の解決課題となっている。

初めての場所を訪ねるときの外出行動調査

インターネットの地図検索を利用しますか？



住所案内表示はわかりやすいですか？



● 駅から、訪問地へ。 公共案内板の役割。

最寄駅に着いたけれど、どのルートで訪問地へ行けばよいのか。ビジネス目的や私的理由は、はじめての場所を訪ねる時、なかなか目的の地が見つからず、困ってしまった経験が誰にでもあるかと思う。

◆ 因みに、当社による《初めての場所を訪ねるときの、外出行動調査》では、「約80%のひとが、インターネットで場所を

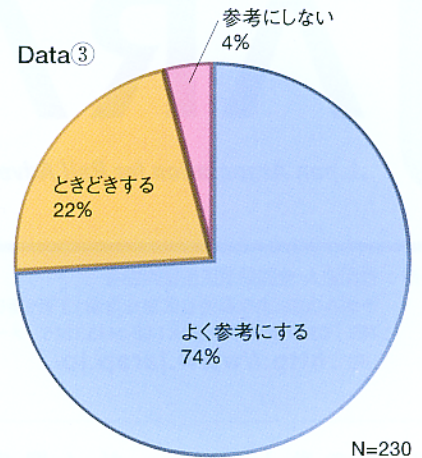
検索してから」出かけると回答している。
※当社・経営企画室調べ Data①

◆ そしてそんな時、頼りになるのが、駅から訪問地までの正確な地図情報や位置関係がわかりやすい街区案内板・地番表示である。61%の訪問者が、街区案内板や電柱の住所表示を「わかりやすい」※ Data②と判断し、「参考にしていく」約96%の人の回答※ Data③というところが、このデータから読み取ることが出来る。

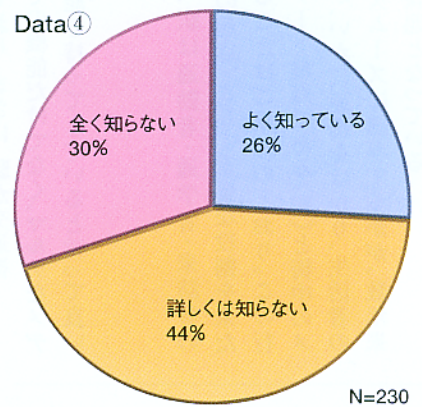
首都圏支部
PR委員会
株式会社 日本広明社
代表取締役社長

水野 裕晃

街区案内版や電柱の住所表示を参考にしますか？



自宅や職場で災害時避難場所は知っていますか？



にともない、PFI方式(Private Finance Initiative 民間企業の支援・協力により、公共目的の施設を設置する方式)の導入が可能になった。

私たちは、この条例改正とPFI方式の導入を機に、NPO法人・日本ソフトインフラ研究センターおよび、《杉並区役所》《千代田区役所》と連携、民間企業(広告主)の資金協力を仰ぐことにより、新しい公共ボード(案内板)の設置を推進することに協力してき

た。民間企業に資金協力してもら

うことにより、従来実現できなかった、『広告スペースつき案内板(SMBソーシャルメディア・ボード：避難誘導・防災・街区案内・広報などを目的とした公共ボード)』を実現できたのである。現在すでに、杉並区、千代田区とも過半数の案

内板が敷設済み。他区での展開も推進している。

なおデータでは、避難誘導板などに企業が協賛することに対して、

- ◎賛成：61%。
- ◎反対：9%。
- ◎わからない：30%。

という調査結果(※Data⑤)が出ており、概ねPFI方式の趣旨が理解されているのではないかと、考える。

●CSRなど、《広告掲出する企業のメリット》。

企業も、以前のように単に営利追求型の経営では、ステークホルダーや一般の生活者から評価されなくなっており、いかに、企業市民として、社会貢献(CSR活動：Corporate Social Responsibility)・地

◆また、通常時だけでなく、大型地震・火災・事故などが予測される昨今では、案内板による生活者・在勤者・来訪者の避難誘導場所の明示も、大きなテーマとなっている。

残念ながら今回の調査では、自宅や職場の災害時避難場所の認識は、

- ◎よく知っている：26%。
- ◎詳しくは知らない：44%。
- ◎まったく知らない：30%。

という調査結果(※Data④)が出ている。この意味でも新しい案内板の敷設を機に、再度、避難場所を告知することが重要かと思われる。

しかし、いままでの街区案内板などは、老朽化していたり、見にくかったりしていたのも事実。また新しく、より分かり

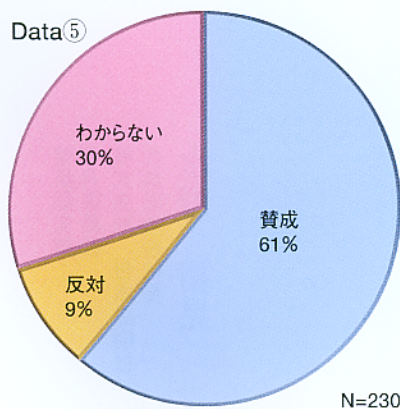


杉並区「避難誘導案内板」



千代田区「総合防災案内板」

避難誘導板設置に企業が協賛することに賛成ですか？



域貢献して行くかが、企業価値向上の判断基準となってきた。

そのような背景のなかで、民間企業が、この公共案内板（ボード）に広告出稿し、資金協力することによって、公共ボードの設置・維持管理を推進することは、多くの区民や在勤者・来訪者などから、その企業行動を高く評価されるとともに、以前にも増して親近感・好感をもって迎えられ

ることとえられる。

ここで、『広告スペースつき公共案内板（SMBソーシャルメディア・ボード）』の特長を整理すると、以下の通りとなる。

■特長①……………協賛企業（広告主）は、区民・在勤者・来訪者の、安全で豊かな生活を導く企業として位置付けられ、『信頼感・好感』をもって迎ええられる。

■特長②……………協賛企業は、企業の社会的責任（CSR）を実践する企業として評価され、『企業価値の向上』、『ブランド構築』に大きく貢献できる。

■特長③……………【公共施設に広告掲出できる、初めてのメディア】として注目。特に従来の屋外メディアと異なり、至近距離（1～3m）から生活者目線で、企業名・商品名・商品デザイン・キャンペーン告知・

URL表示・QRコード表示など、各種メッセージを親近感をもって伝達できる。

以上、今後とも弊社では、今回ご紹介の『広告スペースつき公共ボード（SMBソーシャルメディア・ボード）』のほか、現在の駅メディアの新しい展開に歩調を合わせ、より効果的に連携できるよう、更なる街メディア開発に取り組んでいきたいと考えている。